
FOUR SEASON

一筆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FOUR SEASON

【Nコード】

N0327E

【作者名】

一筆

【あらすじ】

小説というよりも小話です。物語というよりも詩に近いです。

FIRST SEASON

&

FIRST REASON

桜が咲いていた。だが其の桜の木には、此れ以上自分を飾る術など残っていなかった。今は直、下から順に、桜色が緑色に移り変わるのを待つだけだった。

だんだん緑色に染まっていく桜だが、未だ桜の花弁を残す枝も在った。其の花弁たちは、健気にも華やかに最期を誇っていた。

華奢な体質の外見を包む、薄さを重ねて濃くなった装束――

短い命の中、自分を誇るように。

短い体の中、自分を励ますように。

短い時の中、凜と佇むように。

まるで、人間の小ささを表すように――

然して又、来年も其の記憶を辿るのだった。

SECOND SEASON

&

SECOND REASON

教室は、授業が終わって暫くすると静かになった。教室の片隅には、瓶に花が飾って在った。彼女を思わせる一輪。

花に近付き、弁に触れた。抵抗がないほどの軽さに無力感を覚えた。花瓶の置かれている机の椅子に腰掛け、目を瞑った。机に座つ

ていた彼女のことが、頭をよぎった。

背後に人の気配。振り向いてみたが、誰もいなかった。夏の昼下がりに。蝉の鳴き声が、世界を静かに切なく物語った。

校舎内は活気を喪失したまま佇んでいた。無になった彼女を惜しむように……消えた彼女を静かに見送るように……。

花に目を戻し、其の姿を眺めた。一本の花弁が、風で舞った。温もりが、包んだ。

THIRD SEASON

&

THIRD REASON

カラカラカラ……。

木の葉が擦れた。地面と擦れた。

サラサラサラ……。

木の葉が擦れた。砂と擦れた。

パシャッ！

カメラの音。地を這う枯れ葉に向けられた、存在の抱擁。其処にいた、確かな証拠。

少女は無言で頬笑み、枯れ葉を両手で包んだ。目を閉じて、抱くように丸くなった。

道端に落ち葉の山。少女は立ち上がり、落ち葉の山へ倒れ込んだ。辺りに人はいなかった。

少女は詠った。少女の歌声は、木々のあいだを響き過ぎ去っていた。枝同士が重なり合い、ドームを形作っている中、少女の声が、少女の想いが寂しく響いた。

落ち葉が少女を包んでいた。

FOURTH SEASON

&

FOURTH REASON

決して掴めない花。

決して触れられない存在。

触れられないが、存在は感じ取れた。

少女が天へと手を伸ばした。

風に吹かれ乍、花は少女の手に舞い降りた。途端に姿を消し、跡には存在を感じた。変化し易い体で舞い散り、世界を魅了させた。

こんな処では、一塊には成れなかった。何時までも、弧を描いた。孤独を描いた。此の花のように、少女は儚かった。悲しげに、楽しげに。虚げに、誇らしげに。

パシヤッ！

伸ばした手の先に握るカメラが、舞い散る其らをとらえた。

小雪まみれの少女が、微笑しながら詠った。

少女が、奏でた。悲しげな旋律を、奏でた。

それでも屹度、

悲しくても屹度、

淋しくても屹度、

何時かは屹度、

笑える筈さ。

END OF THE STORY

BUT NOT END OF A TALE

START THE ANY TALE

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0327e/>

FOUR SEASON

2011年11月12日19時25分発行